

5 困っていると伝える

SST 指導者(教師)

ポイント

ウォーミングアップ

これからソーシャルスキル・トレーニングを始めます。始めに〇〇ゲームをしましょう。(SSTの流れ参照)

今日のテーマは「困っていると伝える」です。

モチベーション



何か困ったことがあった時、皆さんはどうしますか？誰かに伝えることはできますか？※1

何か困ったことがあって、先生や友達に助けてほしい時には、どのように伝えとよいでしょうか。(どのように言うか・誰に言えばよいか)※2

モデリング



算数の授業が始まってから、三角定規を家に忘れたことに気がきました。三角定規を使って勉強するので、友達から三角定規を借りられそうありません。これから、2つの伝え方をやってみますので、よく見ていてください。困ったことを伝える子ども役を、A先生にやってもらいます。※3

どのように違いましたか？  
A先生にやってみた感想を聞いてみましょう。※4

**ポイント**  
表情：しんけん  
声：はっきり  
目線：目線を合わせて  
姿勢：相手に向けて  
身振り手振り

ロールプレイ



では、2回目の伝え方を順番に練習してみましょう。A先生にもう一度やってもらいましょう。※5

次は、みなさんの番です。できそうな人から挑戦してみましょう。※6



先生方が忙しそうに歩いている時でも、話しかけてよいですよ。「先生、少しいいですか？」と伝えるといいですね。※7

チャレンジ



今日の練習は、「何で困った時」「誰に伝える時」に使えそうですか？※8

振り返り・価値付け



とても上手に伝えられるようになりましたね。今日のように、困ったことがあった時は、ぜひ伝えてください。上手な伝え方ができた友達を見つけたときも、教えてください。※9

子どもが、これから始める SST に楽しく参加できるように、学級の実態に合わせてゲームや話をしてウォーミングアップをします。みんなが穏やかな気持ちでトレーニングに参加できるようにしましょう。

※1 困ったことがあった時を振り返り、言いくさやお願いできなかつた経験について、出します。難しさについて、共感できるようにしましょう。

※2 「なかなか言い出せなくて困ったことはある？」「その時はどんな気持ちだった？」など具体的に聞くのもよいでしょう。

その上で「どのように言えばよいかかな？」「誰に言えばよいかかな？」と問いかけながら、本時練習する場面の状況を明らかにしていくとよいでしょう。

※3 1回目：A「何とってよいかわからず小さな声で独り言のように言う。」(よくないモデル)

担任：首をかしげながら通り過ぎる。

2回目：A「先生、少しいいですか？今日、三角定規を忘れてしまいました。貸してもらえませんか？」(よいモデル)

担任：「いいですよ(笑顔)」

※4 子どもの気づきを共有しながら、伝える時のポイントを確認します。

さらに A 先生に感想を聞く形をとりながら、子どもが難しさを感じる瞬間を取り上げ、改めて確認するきっかけをつくりましょう。ポイントは板書や模造紙に残し、確認できるようにします。

※5 A 先生にポイントを踏まえたよいモデルを見せてもらうことで、子ども達が安心して練習できるようにしましょう。

※6 練習でも子どもは緊張します。心の準備ができた子どもから取り組みませ、担任がほめることで、温かな雰囲気をつくりましょう。

※7 一人一人のロールプレイの後に**よいところを伝え、フィードバックを行うことで、意欲も高まります。**

(例) 困っていることが伝わる言い方でしたね。

※8 トレーニングしたことが使えそうな具体的場面を予想させることで、目標が明らかになり、意欲が高まります。

※9 **できないことを指摘するのではなく、練習して、できたことを褒めることで、よりよいコミュニケーションの意欲付けを図り、子どもの健やかな成長につなげていきましょう。**

※ 「困っていると伝える」ソーシャルスキル・トレーニングと「お願いを引き受ける」ソーシャルスキル・トレーニングはセットで取り組むと効果的です。